

株式会社地域活性局

生産地育成事業

消費地振興事業

県外出荷事業

その他事業

創業：平成19年3月12日 従業員：32名(社員6名) 年商：1.35億円
代表取締役 藤丸正明 1983年8月生まれ 福岡県太宰府市出身

消費地振興事業

地域：奈良市ならまち地区

観光案内事業 広告広報事業
施設管理事業(ならまち格子の家)



奈良町情報館



広告広報事業



施設運営事業



観光企画

情報発信拠点「奈良町情報館」を中心とした地域での展開

観光地の情報発信拠点「奈良町情報館」



周辺の商店から広告を集め、情報館にて観光客に商店情報を提供することにより観光需要の開拓を行い、集客力の上がった飲食店・商店に提携する生産地食材を卸す事業

開館：2007年10月5日（大学4年生時） 総来館者数：723,460名（2018年10月11日現在）

奈良町情報館
機能

観光案内

広告事業

物販

レンタサイクル



広告掲示し・口頭で紹介(紹介数約4000/月)。→ 広告主も徐々に増加 当初2軒→149軒

奈良町おさんぽMAP(町中の周遊促進のため製作)年間約24万部発行



2009年度版
協賛:50軒
10万部発行



2010年度版
協賛:84軒
20万部発行



2011年度版
協賛:105軒
20万部発行



2012年度版
協賛:111軒
20万部発行



2013年度版
協賛:119軒
21万部発行



2014年度版
協賛:125軒
22万部発行



2015年度版
協賛:128軒
22万部発行



2016年度版
協賛:131軒
23万部発行



2017年度版
協賛:136軒
23万部発行



2018年度版
協賛:141軒
24万部発行

ならまちおを訪れた人→奈良町情報館

奈良に訪れた人→奈良町おさんぽガイドMAP

ならまちを訪れる意思のある人→WEBサイト

総計205万部発行 50万部発行/年を目指しています。

観光と地域産業(吉野林業)の協同事業



奈良で最大規模の第一産業「吉野林業」。吉野地方の林業を担う若者の会「吉野桜井木材成年クラブ」と提携し、ならまちで木を魅せる企画。3年計画(2008年～)で外観・内装まで改修。毎日新聞掲載記事がyahoo!ピックス掲載。

今後、観光地で地域産業を販売する吉野杉檜館への移行予定

地域の商店と旅行代理店を繋ぐ初めての取り組み



バス団体客が入店できる規模ではない「ならまち」の飲食店。平城遷都1300年祭に合わせて、旅行代理店と業務提携し、ならまち内で団体客が提携飲食店にバラバラに入店できる形を実現。

奈良町情報館 商店交流会



1998年 元興寺が世界遺産に登録されてから商業力が伸びた「ならまち」。
商店同士の交流の機会を創出(商店数 1998年 43軒→2018年 191軒)

行政との協働事業・動線設定・商店の誘致による客単価の向上

ならまちにおける行政との協働事業

奈良町情報館 H19.10開館 観光ルート of 策定

ならまち格子の家 H24年より管理(トリップアドバイザー7位)

奈良町にぎわいの家 H27.4開館(10万人/年 来場)

ならまち振興館 H27.11月開館

奈良町南観光案内所「鹿の舟」(1.2万人→6万人/年来場)



中新屋町の築90余年の豪商の商家大西家住宅が平成9年頃から売物件に。マンション計画などもある中、奈良市が買収。

玄関入口として、集客力のある企業の指定管理を提案。同時に募集にも協力し、南の玄関に地元の有力企業の誘致に成功。現在のならまちの平均単価よりも高い単価の集客を実現。



年間6万名の集客を誇るカフェくるみの木運営「鹿の舟」

ルート整備で、効果的な店舗配置・集客システムが可能



茶の湯事業による地域課題克服とブランド化戦略

多くの商店との結びつきができれば、今度は地域全体に集客する方法を模索する

課題◇奈良は春(奈良公園ファミリー客)と秋(正倉院展)の客層が違う 宿泊客数が少ない

日本の地域社会の観光PRは基本的に行政頼み

行政は不特定から集めた税金でPRを行うため、ターゲットを絞れない

結果平城遷都1300年祭型になる(前後約5年分需要を掘り起こした結果、その後宿泊客等が減少。急激な変化についていけない多くの観光業者が廃業)

奈良の地域産業「吉野杉・檜」・「吉野葛」・「墨・筆」を求める客層を集める
閑散期に宿泊客が欲しい

奈良の地域産業は茶の湯の世界で使われている→地域産業への波及効果期待
お茶会は冬がオンシーズン・客層も期待できる →オフシーズン対策
茶会関係者は前日宿泊し、当日着物で会場へ→宿泊が期待
奈良は文化芸術に関連する店舗が多い →経済効果も期待

京都仏教会理事長 有馬頼底猥下を招聘

- ① 大茶会に実績がある。(流派を問わないお茶会が大人気)
- ② 社寺関係に顔が利く。(京都仏教会理事長の肩書)
- ③ 催事を成功させてきた実績がある。(京都 花灯路 等)

有馬氏を会社顧問に迎え、事業構想から実現へと動く(2年かかる)
膨大な予算が必要の為、会社単独開催を諦める・・

奈良の閑散期に高所得者を呼ぶ事業「大茶会事業」を奈良市に企画提案

創業5周年記念式典・パーティー

2012年～5年間の事業計画

① 茶道でまちおこし

3 経済 平成24年（2012年）2月15日 水曜日 奈

創業5周年の節目に茶道によるまちおこし事業を発表する地域活性化局。13日夜、奈良市法華寺町の奈良ロイヤルホテル

地域活性化局
茶道でまちおこしを
5周年 地域振興へ新規5事業

地域振興事業を手がける地域活性化局（奈良市中院町、藤丸正明代表）は13日夜、奈良市法華寺町の奈良ロイヤルホテルで創業5周年記念式典を開き、事業計画として茶道によるまちおこしに取り組む方針を発表した。

同社は平成19年奈良市の旧市街地・奈良町で創業。観光案内施設の運営を主体に川上村で栽培した野菜の朝市や古野地域の特産品販売事業を展開している。

あいさつで藤丸氏は、観光を軸に山間部と都市部を流通で結ぶ地域振興を図ってきたことを報告。今後の事業計画では茶道と工芸の芸術祭▽町家保存の地域基金設立▽商店・宿泊

施設の紹介サイト開設など五つの新規事業を発表した。

続いて、茶道に造詣の深い臨濟宗相国寺派管長の有馬頼底師が「茶道と観光を主題に特別講演。自ら取り組んだ観光事業が誘客につながったことを例示し「何かやらないと何も起らない。やる」となったら協力することが大切」と訴えた。

茶道と奈良の関わりについては「村田珠光

2012年2月



第一回珠光茶会 日時:2014年2月12日～16日

会場
東大寺
春日大社
薬師寺
西大寺
元興寺
唐招提寺
大安寺
ならまち

参加
表千家
裏千家
武者小路千家
遠州流



春日大社 武者小路千家



元興寺 遠州流



大安寺 裏千家学校茶道



東大寺 裏千家

第二回珠光茶会 日時:2015年2月9日～16日

会場
東大寺
春日大社
薬師寺
西大寺
元興寺
唐招提寺
大安寺
ならまち

参加
表千家
裏千家
武者小路千家
遠州流
石州流



元興寺 遠州流お家元献茶式



春日大社 特別席



石州流 薬師寺



なら100年会館 シンポジウム

興福寺中金堂落慶慶讃茶会(5日間)

301年ぶりに再建された興福寺中金堂を慶讃するお茶会を開催

武者小路千家千宗屋氏を総合プロデューサーに、中金堂落慶慶讃茶会を運営
かつて仏教界を超えて覇を競った興福寺(南都)と比叡山延暦寺(北嶺)が合同法要
席主は廃仏毀釈時に興福寺の仏教美術品を多数購入し保護した藤田美術館
多くの仏教美術品を里帰り披露

各界の著名人が奈良興福寺のお茶会を目指し全国から来場
会費25,000円で600名(満席)が参加→期間中周辺の宿泊・飲食共に劇的に向上